

[平成30年度第1回 富良野市下水道事業運営審議会 議事録]

開催日 平成30年7月25日(水) 午後3時15分から午後4時55分まで

開催場所 富良野市役所 第3会議室

出席者 委員 山田明、吉中文也、年代哲也、早川英剛、関野孝子
高橋壽恵、佐藤仁寿、小玉将臣、天内繁 (計9名)
(欠席：糠谷 諭、小林弘典)

事務局員 吉田建設水道部長、北川上下水道課長、佐藤上下水道課主幹、
関澤業務係長、安彦業務係主査、香川下水道施設係長 (6名)

○上下水道課長の進行で開会

○部長あいさつ

人口減少により下水道使用料収入も減少が予測されている。

地方公営企業として位置付けられている下水道事業について、国は人口3万人未満の団体についても、地方公営企業法を適用する会計処理、いわゆる企業会計方式とすることを検討し、今年度中に指針が示されることとなった。本日の報告事項で情報提供したいと考えている。今回の審議会では諮問事項はないが、会議の後に施設見学も予定しているので、下水道事業の理解を深めて頂きたい。

○事務局の紹介及び委員の自己紹介

○審議会について

本審議会は公開で実施され、議事録も公表されることを説明し、承諾された。

○議事進行 条例第6条第1項により会長が議長となり議事進行

○議事

報告1 下水道事業概要と経営状況について (安彦業務係主査)

資料に基づき事業概要と収支計画について説明

《質疑》

Q：料金収入について、次年度以降は減少傾向との事だが数値を見ると顕著ではないと見えるが、その点について説明願いたい。

A：平成28年度以前からの減少率で平成30年度予算としている。

平成31年度以降は平成30年度予算に消費税改正分の約2%を上乗せして試算しているため、一時的に増額となっているが、その後は減少している。

《了解された》

Q：建設改良費について、施設の修繕も含めた数値なのか。平成33年度以降280,000千円が計上されているが、計画的なものなのか

A：建設改良費には、一般的に行われる施設や機械の修繕は含まれていない。

修繕については、経常経費と位置づけ収益的支出に含まれている。建設改良費には、施設や機械・電気等の更新(入替)や現在の性能を向上させるような修繕、交付金や企業債により財源確保できるものが計上されている。

平成33年度以降については、国費要望の関連もあることから、雨水幹線である無頭川の整備改修費も計上して、280,000千円を事業費上限として計上した。

Q：無頭川は下水道事業となるのか

A：無頭川は、もともと都市下水路として整備されたもので、生活雑排水や雨水の排水路となっていた。現在の位置付けは雨水を集積し排出する雨水幹線であり、道路側溝などとは異なることから、管理を下水道事業で実施している。

《了解された》

報告 2 平成 30 年度事業概要について（香川下水道施設係長）

資料に基づき平成 30 年度工事等実施概要について説明

◆委員からの質疑等なし

報告 3 下水道事業会計の法適用化について（関澤業務係長）

口頭説明

総務省より人口 3 万人未満の下水道事業者に対し、地方公営企業法を適用する会計処理方式【企業会計化：複式簿記】への移行について、今年度中に導入時期が示される見通しである。いわゆる法適用化であるが、導入までに固定資産の洗い出し、資産台帳整備など最短でも 2 年を要すると言われている。本市においても水道会計で導入しているが、下水道事業についても企業会計導入に向けて調査・検討、事務整理を実施していく。

《委員全員了解：国の施策であり適切に実施すべき。》

報告 4 審議会の統合について（北川課長）

資料に基づき、類似団体の状況と審議会の意義、統合について説明

◆出席委員、全会一致で賛同するものであるとの意見をいただいた。

■諮問事項が無いため、審議については省略

○その他 次回開催について

各委員の任期が平成 31 年 7 月 19 日までであり、現在のところ次期開催予定はない。次年度については、統合後の開催となる見込みである。

《委員全員了解》

閉 会

16 時 10 分～

◆山部水処理センター視察

○香川下水道施設係長より、施設概要説明後、施設内各所を説明しながら視察した。

16 時 55 分 市役所前で解散

【傍聴者等なし】